

タイ都市部スラムにおけるタイのヘルスポランティア活動と直面する困難

○柳田美智子(東京大学医学部附属病院) 長松康子(聖路加看護大学、国際看護学)

【目的】ヘルスポランティアはプライマリヘルスケアのキーコンセプトの1つで、主に開発途上国において住民の健康増進に重要な役割を担っている。タイでは、1985年に本格的に導入されて以来、栄養、健康教育、水分補給、公衆衛生、必須医薬品、母子・小児保健、家族計画、精神保健、菌の健康、環境保健、消費者保護、エイズ予防などに従事してきた。近年では、農村部に限らず、人口流入が進む都市部の低所得地域においてもヘルスポランティア活動が行われるようになった。しかしながら農村部のHVに関する報告はあるものの、都市部のHVの活動については不明な点が多い。本研究はタイバンコクのスラム地区におけるHVの活動とその困難について資料を得ることを目的とした。

【調査方法】バンコク・メトロポリタンK地区HV17人に、年齢、性別、経歴年数、HV以外の仕事の有無、HVとしての仕事内容(選択肢複数回答可)、HV業務における困難についてインタビューを実施した。調査地域は、バンコク中心部の低所得者居住地域で、宗教や社会階層の異なる15のコミュニティが混在していた。主な産業は数珠花づくりで、住宅は木造平屋が多く、上下水道整備は不完全であった。路地はごみや汚水で溢れ、野犬が放し飼いになっていた。

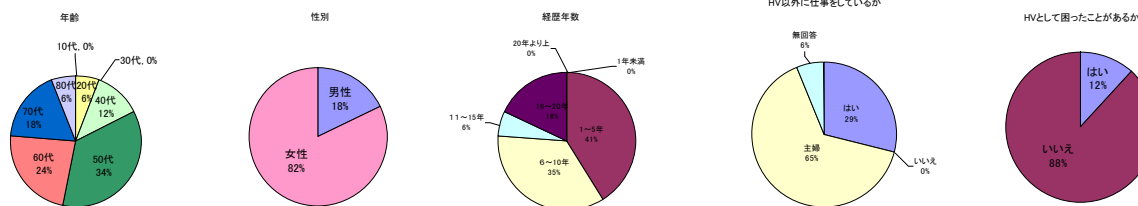
【結果】HVの年齢は21-81歳(平均59歳)で、8割が女性で、主婦が65%、HVとしての経験年数は2-19年(平均8.2年)であった。業務内容は、家庭訪問(76%)、感染症予防キャンペーン(100%)、血圧測定(23%)、健康教育(94%)、薬の提供(82%)、コンドームの無料配布(76%)、注射(0%)、事務(94%)であった。ヘルスポランティアをしていて困ったことがあると答えた者は12%で、その内容としては、知識不足と書類をうまくかけないので時間がかかるというものであった。

【考察】HVが医療処置を行わない背景には、HVが高齢であることや、医療が整った施設が多く存在し、地域保健師が活発に活動している地域的背景が関連していると推察できた。

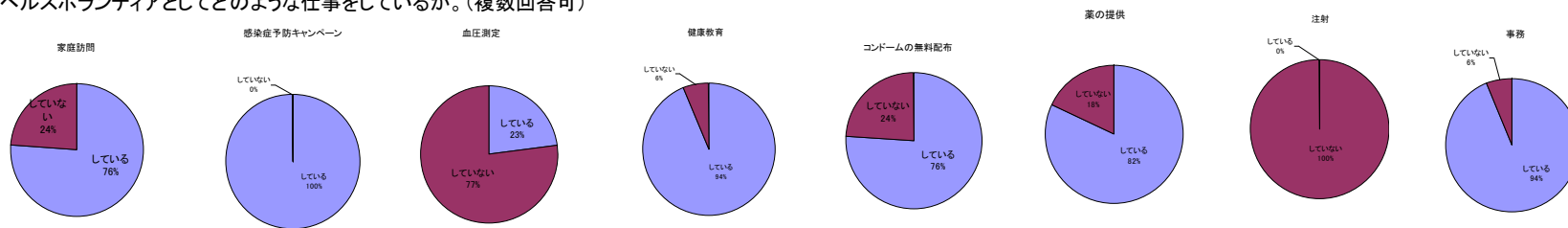
【結論】都市部スラムのHVは、注射など医療的なサービスは行わず、感染症キャンペーンや家庭訪問などを中心に活動を行うと共に、地域の一員であることを活用した地域・医療間のパイプラインの役割を担っていた。

【倫理的配慮】調査対象者には、目的と内容、調査協力の可否や回答内容により、不利益を被ることはない旨を説明した上で、承諾を得た。

1. ボランティアの属性



2. ヘルスポランティアとしてどのような仕事をしているか。(複数回答可)



K地区の様子↑



←ヘルスセンター
ヘルスポスト↑



↑デング熱予防キャンペーンに使われていた道具
←ヘルスポストにある地図にはHVの家が青く塗られている。



キャンペーン中のHV達↑



↑パンフレットに目を通している住民



↑コミュニティナースから技術指導をうけるHV達